

## 資 料

### 富山県の理工・自然史系博物館の入館者動向 (2013 - 2015年)\*

富山県博物館協会理工・自然史分科会  
幹事館 富山市科学博物館  
939-8084 富山市西中野町一丁目8-31

### Trends Among the Visitors of Natural History/Science Museums in Toyama Prefecture from 2013 to 2015

Toyama Museum Association, Subcommittee  
on Natural History and Science  
Toyama Science Museum  
1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama-shi, Toyama  
939-8084, Japan

The Subcommittee on Natural History and Science in the Toyama Museum Association conducted a survey of the visitors to various museum facilities during the years 2013-2015 in order to capture recent trends among visitors to each facility and compare the factors affecting attendance in the hopes that this information would serve as a reference to inform the management of each facility henceforth. This paper will present the results of this endeavor.

#### はじめに

富山県博物館協会理工・自然史分科会では、最近の各館での入館者動向を総体的に把握し、各館での入館者変動要因の相対的な比較を行い、今後の各館運営への参考資料とすることを目的として、2013～2015年の3年間分につき各館の入館者数調査を実施した。

調査対象館は、富山県博物館協会加盟館のうち理工・自然史系の分野を有する以下の18館である。配列は「富山県博物館協会五十年史」の加盟館園一覧にならった。

樺平ビジターセンター（黒部市）、黒部川電気記念館（黒部市）、黒部市吉田科学館（黒部市）、魚津水族博物館（魚津市）、魚津埋没林博物館（魚津市）、富山県〔立

山博物館〕（立山町）、富山県立山自然保護センター（立山町）、立山カルデラ砂防博物館（立山町）、富山県交通公園交通安全博物館（富山市）、北陸電力エネルギー科学館（富山市）、富山市科学博物館（富山市）、富山市ファミリーパーク（富山市）、富山市天文台（富山市）、富山県自然博物館ねいの里（富山市）、富山県中央植物園（富山市）、富山県国際健康プラザ生命科学館（富山市）、氷見市海浜植物園（氷見市）、庄川水資料館（砺波市）

なお、黒部川電気記念館は2015年度現在、富山県博物館協会には加盟していないが、1987年から2012年まで加盟していた経緯があり、調査に協力いただいた。

#### 調査方法

理工・自然史分科会の幹事館である富山市科学博物館が、調査の取りまとめと本報告の執筆を行った（文責は増渕佳子、根来 尚、南部久男）。調査は、2015年12月に各館にアンケート用紙（図1）を送付し、2016年1月末日までに返送されたアンケート結果をとりまとめた。その結果を各館に送付し、その結果に対し2016年4月に再度各館のコメントを求めた。

別紙

理工・自然史系博物館における入館者数調査

■館名 \_\_\_\_\_

■データに関するお問合せ先 \_\_\_\_\_ (電話番号) \_\_\_\_\_  
(お名前)

	H25	H26	H27
1月	人	人	人
2月	人	人	人
3月	人	人	人
4月	人	人	人
5月	人	人	人
6月	人	人	人
7月	人	人	人
8月	人	人	人
9月	人	人	人
10月	人	人	人
11月	人	人	人
12月	人	人	人

※入館者は有料・無料/団体・個人に拘らず、入館者総数とします。

入館者数の増減に関して具体的な要因やお気づきの点がありましたらご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

問合せ先  
富山県博物館協会理工・自然史分科会幹事館  
富山市科学博物館 増渕・南部  
tel. 076-491-2125  
mail. museum@tsm.toyama.toyama.jp

図1 各館に送付した調査票

\* 富山市科学博物館研究業績第507号

## 結果

アンケートのまとめを表1、2および図2、3に示す。表1は、各館の2013～2015年の月別入館者数を示している。入館者の統一した内訳（市内・市外、県内・県外、年齢層等）があればより明確な分析が可能となったと思われるが、今回が初めての全県的調査であったこと、また館により入館者カウント方法が違う等の理由から、明示できなかった。図2および図3は、表1をグラフ化したもので、図2は博物館全体の月別入館者数を、図3は各館の月別入館者数を示している。

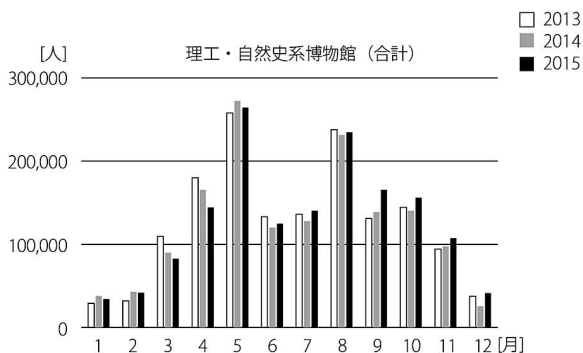


図2 2013～2015年の県内の理工・自然史系博物館全体の月別入館者数

### 1 全体的傾向

各館の3年分の入館者数データをまとめてみると、富山県内の理工・自然史系分野を有する博物館には、毎年ほぼ安定して約145万人の入館者がある（表1）。また月別入館者数を比較してみると（図2）、入館者数は5月と8月（いわゆるゴールデンウィークとお盆を含む月）に特に多く、冬期（12～2月）には減少するという周期性も安定的にみられる。また、2015年の9～12月は、2013、2014年と比較し入館者数が微増した館が多く（表1）、全体として同期間の入館者数を押し上げている。

### 2 各館の月別傾向

各館の月別入館者数（図3）を見てみると、館ごとに異なる特徴をもつ。以下では、館ごとの特徴とその要因について、各館のコメント（表2）をまとめ、述べる。

#### 2-1 特定の時期に入館者数が増加する館

月別入館者数について明瞭なピークをもつ館は、そのピークの数から次の3つに分類される。

**年1回：立山カルデラ砂防博物館（4～5月）、富山県中央植物園（4～5月）、氷見市海浜植物園（8月）**

上記の館がそれぞれ特定の時期に明瞭なピークをもつ理由は、以下のように考えられる。立山カルデラ砂防博物館は立山駅に近接し、4月中旬～5月には立山黒部アルペンルートで見られる雪の大谷を目的とする観光客が

増加するため、富山県中央植物園は4月上旬の「さくらまつり」や入園料が無料となる5月の「県民ふるさとの日」の開催、氷見市海浜植物園は7月中旬から8月末まで、様々な体験展示やイベント、教室などを開催する「親子ふれあいまつり」を開催しているためである。富山県中央植物園と氷見市海浜植物園は、上記イベントの開催に合わせて広報活動も積極的に行っており、その効果も出ているものと考えられる。

**年2回：樺平ビジターセンター（8、10月）、黒部川電気記念館（5、8～10月）、魚津水族博物館（5、8月）、魚津埋没林博物館（5月、8月）、富山県立山博物館（5、8月）、富山県立山自然保護センター（5、8月）、富山市ファミリーパーク（5、9月）**

複数の館で5月と8月に入館者数のピークが見られる。これはゴールデンウィークとお盆に入館者数が増加するためである。富山市ファミリーパークは8月に比べ、9～10月の入館者が多いが、これは同パークが屋外展示を主とする動物園で、真夏の暑い時期よりも秋の行楽シーズンに入園者数が増加したためと考えられる（表2）。樺平ビジターセンターは、黒部峡谷トロッキ電車の終点駅に近接する博物館であり、8月と10月に入館者数が増加する。これは夏休み期間による増加と、秋の紅葉を目的とする観光客による増加である（表2）。黒部川電気記念館は黒部峡谷トロッキ電車の始発駅に近接しているため、同館も、黒部峡谷を目的とする観光客の多い8月および紅葉の時期に入館者数の増加が見られる。

**年3回：北陸電力エネルギー科学館（3、5、8月）**

北陸電力エネルギー科学館は、土日祝日や学校の長期休みに合わせて実験や工作などのイベントを開催しているため、春休み、ゴールデンウィーク、夏休みの年3回、来館者が増加する（表2）。

#### 2-2 年間を通じて大きな変動が無い館

**黒部市吉田科学館、富山県交通公園交通安全博物館、富山市科学博物館、富山市天文台、富山県自然博物館ねいの里、富山県国際健康プラザ生命科学館、庄川水資料館**

これらの館では、年間を通して（春・夏には増加し、冬期には多少減少するものの）定常的に入館者がある。これは、館内での展示を主とし展示内容に季節的な偏りが無い、プラネタリウムの投影を行っている（富山市科学博物館、黒部市吉田科学館）、天候にかかわらず学校の見学が可能である（例えば富山県国際健康プラザ生命科学館など）、県内の観光・宿泊地を訪れる団体客等の安定した需要があること（例えば魚津埋没林博物館など）が要因である（表2）。

## まとめに代えて

個々の館の入館者数は、さまざまな要因により変動する。今回の調査によってそのことが明瞭に確認されたように思われる。今回、入館者数の変動に関わる要因として認められたのは、羅列的に記すと以下のようなものである。

立地要因：既に有名となっている観光地に立地するか

広報：宣伝の努力が実を結びつつあるか

展示内容：県内ならず県外からも来館したくなる常設

展示や特別展示がなされるか

展示更新：展示替えが適宜なされているか

学校等との連携の有無や程度

観光施設としての認識度の大小

近隣施設の動向

移動手段の変化

年々の天候

富山県内には、多様な内容の理工・自然史系の博物館が存在し、その規模、主要な目的、主な入館者相等も異なっている。入館者数の変動要因もさまざまであるが、それらの事柄は、ある館にはプラスとなることが他館にはマイナスとなるなど、館によってその影響の仕方や程度も異なる。

各館がそれらの要因の影響を分析し、富山県内の理工・自然史系博物館が相補的互惠的に連携した運営を考えていくことで、今後全体として拡大が図れるであろう。

## 謝辞

今回の調査を企画し、アンケートにお答えいただいた富山県博物館協会加盟の各館にお礼申し上げる。また、今回調査のまとめが一応の形になったのも、各館で今回の調査にあたり担当された方々との討論と応援によったところが大きく、各館担当者に深く感謝申し上げます。

表1 2013～2015年の県内の理工・自然史系博物館の月別入館者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
樺平ビクターセンター	2013年	0人	0人	0人	0人	200人	6,430人	19,182人	7,006人	10,534人	8,314人	0人	51,666人
	2014年	0人	0人	0人	0人	6,454人	3,684人	8,869人	17,471人	10,978人	15,676人	10,489人	73,621人
	2015年	0人	0人	0人	0人	2,063人	9,359人	13,957人	24,086人	14,324人	20,882人	14,433人	99,104人
黒部川電気記念館	2013年	559人	679人	790人	5,098人	12,517人	6,565人	9,643人	22,395人	10,255人	13,738人	8,533人	91,560人
	2014年	622人	890人	1,208人	2,921人	9,483人	6,156人	7,418人	14,971人	9,342人	11,895人	5,389人	70,793人
	2015年	528人	612人	1,456人	3,461人	13,845人	7,579人	10,783人	17,221人	14,565人	15,165人	8,696人	94,906人
黒部市吉田科学館	2013年	1,779人	1,378人	2,966人	2,635人	3,891人	5,886人	9,788人	9,986人	4,074人	2,629人	5,658人	52,203人
	2014年	1,533人	2,023人	2,854人	2,279人	5,344人	3,658人	6,869人	6,065人	3,100人	2,272人	5,329人	43,504人
	2015年	2,298人	1,668人	2,553人	2,175人	5,509人	4,996人	7,449人	8,522人	4,759人	2,667人	4,549人	47,675人
魚津水族博物館	2013年	1,369人	0人	23,574人	24,509人	34,929人	13,180人	16,767人	32,933人	14,761人	14,532人	8,901人	189,300人
	2014年	6,207人	5,179人	11,563人	11,938人	24,031人	10,314人	11,865人	29,526人	10,453人	12,470人	10,240人	146,434人
	2015年	5,410人	4,889人	11,207人	11,414人	24,316人	9,905人	12,521人	26,741人	13,903人	10,799人	10,792人	146,851人
魚津埋没林博物館	2013年	794人	1,418人	2,873人	3,404人	6,060人	3,377人	3,756人	6,285人	4,200人	4,164人	3,982人	41,615人
	2014年	967人	1,444人	2,310人	2,271人	5,104人	3,424人	2,692人	4,907人	3,397人	3,725人	4,256人	35,152人
	2015年	807人	0人	1,595人	3,093人	6,305人	3,102人	3,510人	5,003人	3,553人	5,010人	3,502人	36,562人
富山県[立山博物館]	2013年	290人	288人	786人	2,328人	9,997人	7,391人	8,106人	12,995人	6,055人	8,239人	5,063人	61,940人
	2014年	417人	428人	852人	3,810人	12,815人	7,458人	6,407人	14,411人	6,836人	7,841人	4,964人	66,496人
	2015年	431人	598人	1,029人	5,824人	13,207人	7,932人	6,961人	13,209人	7,952人	7,894人	6,060人	71,627人
富山県立山自然保護センター	2013年	0人	0人	0人	29,104人	51,747人	17,045人	31,642人	38,562人	21,303人	25,669人	2,341人	217,413人
	2014年	0人	0人	0人	25,363人	56,565人	21,808人	26,153人	37,145人	16,974人	21,693人	3,127人	208,828人
	2015年	0人	0人	0人	27,901人	50,666人	20,345人	28,647人	40,444人	22,316人	21,512人	5,414人	217,245人
立山カルデラ砂防博物館	2013年	274人	273人	627人	9,771人	9,618人	2,595人	4,629人	7,162人	3,016人	3,223人	1,696人	43,177人
	2014年	291人	357人	597人	12,928人	13,720人	2,795人	3,479人	7,058人	3,933人	4,058人	1,448人	50,896人
	2015年	352人	364人	632人	3,767人	12,339人	2,843人	3,490人	5,907人	5,154人	3,787人	1,361人	40,430人
富山県交通公園交通安全博物館	2013年	2,019人	2,664人	3,278人	4,114人	3,086人	4,028人	3,331人	5,174人	5,239人	2,753人	1,564人	38,712人
	2014年	1,940人	2,248人	2,659人	4,461人	3,390人	3,864人	4,138人	4,881人	6,191人	2,876人	2,577人	40,918人
	2015年	1,714人	2,266人	2,845人	4,436人	3,890人	3,801人	3,977人	4,942人	4,651人	4,048人	2,708人	41,018人
北陸電力エネルギー科学館	2013年	4,948人	4,944人	12,614人	6,177人	11,840人	6,183人	8,262人	20,496人	5,596人	7,810人	8,364人	102,950人
	2014年	5,554人	5,038人	12,648人	6,070人	12,602人	4,786人	7,577人	16,503人	5,349人	6,868人	9,441人	98,036人
	2015年	3,994人	5,083人	11,536人	6,888人	15,246人	5,347人	8,300人	22,943人	7,288人	6,513人	8,670人	107,905人
富山市科学博物館	2013年	5,524人	6,985人	12,257人	8,464人	7,784人	11,139人	12,598人	18,866人	8,239人	9,297人	9,119人	115,891人
	2014年	6,073人	6,179人	9,521人	4,918人	10,881人	12,123人	12,560人	22,732人	7,916人	9,782人	10,320人	116,648人
	2015年	5,266人	6,253人	8,612人	7,597人	9,644人	11,434人	10,070人	17,109人	8,477人	10,002人	9,815人	109,025人
富山市ファミリーパーク	2013年	5,462人	5,773人	26,905人	46,428人	73,940人	43,089人	10,049人	22,350人	32,615人	32,288人	19,409人	322,539人
	2014年	6,863人	9,029人	21,765人	40,742人	77,657人	29,006人	13,412人	30,809人	46,683人	33,052人	20,037人	330,882人
	2015年	5,919人	9,528人	21,722人	33,230人	79,086人	30,347人	14,690人	27,888人	46,456人	37,227人	22,598人	337,421人
富山市天文台	2013年	113人	268人	660人	435人	993人	1,345人	1,277人	2,090人	976人	657人	675人	9,678人
	2014年	178人	130人	265人	329人	867人	1,112人	1,174人	1,334人	874人	1,103人	358人	7,795人
	2015年	121人	141人	273人	462人	714人	700人	859人	1,535人	835人	862人	454人	7,172人
富山県自然博物園ねいの里	2013年	434人	394人	925人	1,400人	2,852人	2,033人	1,727人	1,556人	1,504人	2,152人	1,088人	16,476人
	2014年	725人	442人	714人	1,545人	2,711人	1,233人	1,826人	1,472人	2,349人	2,124人	1,872人	17,536人
	2015年	692人	462人	992人	1,620人	3,977人	1,422人	2,036人	1,704人	2,054人	1,866人	1,279人	18,759人
富山県中央植物園	2013年	1,854人	1,842人	9,686人	20,577人	16,271人	5,562人	3,485人	7,325人	4,244人	5,089人	4,579人	84,549人
	2014年	2,977人	4,842人	9,621人	32,287人	18,953人	5,158人	5,152人	6,247人	4,751人	6,088人	5,116人	103,944人
	2015年	3,080人	5,732人	7,368人	21,882人	10,399人	4,829人	5,456人	6,622人	4,981人	6,413人	4,808人	86,391人
富山県国際健康プラザ生命科学館	2013年	1,362人	1,596人	2,907人	2,027人	2,400人	1,812人	3,205人	4,534人	1,625人	2,627人	2,390人	28,125人
	2014年	1,715人	1,405人	3,936人	2,085人	2,378人	1,816人	2,800人	5,193人	2,231人	1,353人	1,780人	27,732人
	2015年	1,457人	1,313人	1,915人	2,512人	1,968人	1,413人	3,993人	4,201人	1,585人	1,786人	1,462人	24,845人
氷見市海浜植物園	2013年	1,225人	1,641人	2,328人	1,790人	3,590人	4,129人	6,234人	12,071人	2,584人	2,767人	2,449人	42,203人
	2014年	985人	1,522人	2,318人	1,491人	4,037人	3,160人	6,525人	12,024人	1,357人	2,153人	1,759人	38,435人
	2015年	695人	1,129人	2,063人	1,377人	3,758人	3,326人	6,775人	12,246人	2,350人	2,269人	2,292人	41,676人
庄川水資料館	2013年	26人	382人	40人	297人	1,162人	718人	473人	471人	383人	562人	369人	4,926人
	2014年	30人	336人	120人	338人	706人	553人	521人	732人	446人	424人	532人	4,790人
	2015年	35人	169人	16人	328人	406人	399人	586人	534人	316人	506人	381人	3,746人
全館合計	2013年	27,742人	30,237人	102,430人	166,230人	242,680人	128,886人	133,296人	231,438人	127,620人	140,491人	89,431人	1,452,983人
	2014年	36,660人	41,064人	82,099人	151,966人	254,883人	114,750人	123,030人	219,070人	136,324人	137,612人	94,070人	1,415,944人
	2015年	32,368人	39,609人	74,785人	132,143人	244,131人	121,147人	137,099人	227,648人	157,567人	151,314人	103,214人	1,460,731人

富山県の理工・自然史系博物館の入館者動向（2013～2015年）

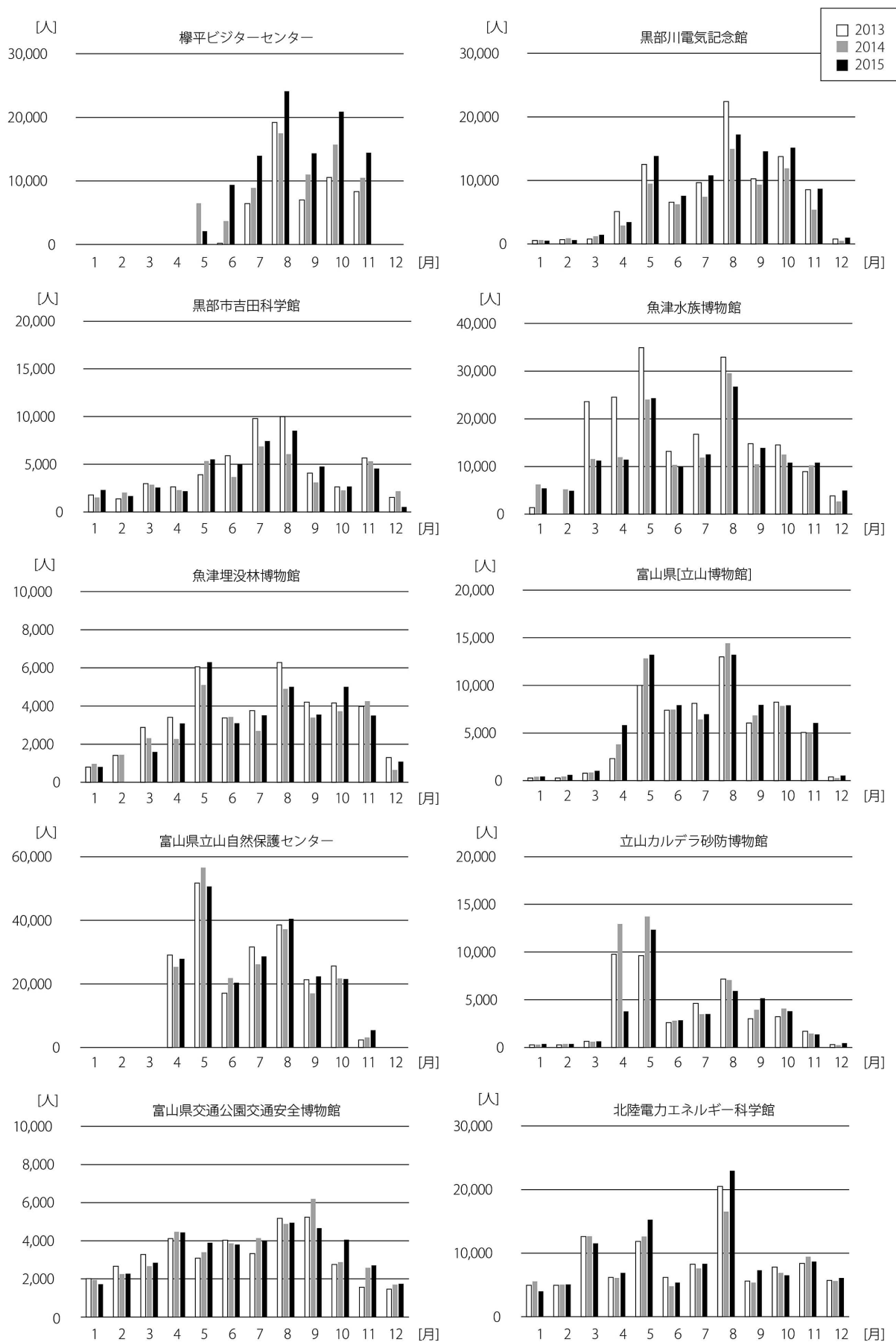


図3 2013～2015年の県内の理工・自然史系博物館の月別入館者数 館によって縦軸の数値が異なっていることに注意.

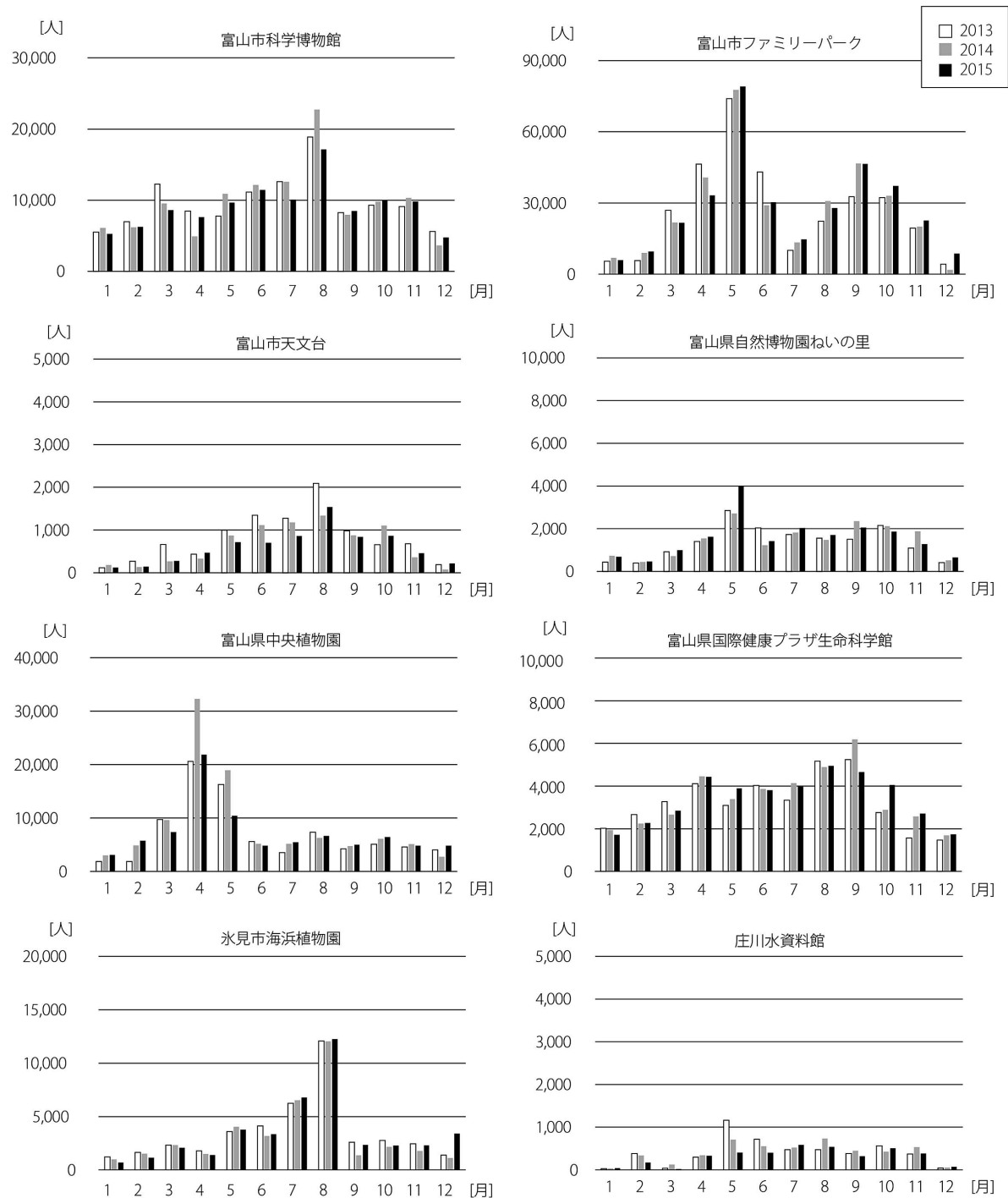


図3 続き

表2 2013～2015年の県内の理工・自然史系博物館の入館者動向についての各館からのコメント

樺平ビジターセンター	2013 年 6 月 30 日にオープンした。開館以来、入館者数が増加し続けている。2015 年に入館者数が増加したのは、北陸新幹線開業による効果が大いものと考えられる。特に夏休みの 8 月、紅葉シーズンの 10 月に入館者数が 20,000 人を超えている。また、安定した入館者数を確保できるよう、自然観察会の開催、ナチュラリストによる自然解説に力を入れている。
黒部川電気記念館	北陸新幹線開業を追い風に乗客数を伸ばした黒部峡谷トロッコ列車や、同年春に新設された黒部峡谷の大自然と電源開発の歴史を体感できる「黒部峡谷パノラマ展望ツアー」の効果により、黒部峡谷エリア全体の客数が増加したことを受け、2015 年の入館者が増加した。
黒部市吉田科学館	夏の来館者数の増減は気温・天候による影響が強いのではないかと考えている。例年 11 月に来館者が増加するのは、2010 年度から行っている「プラネタリウム祭り」が近隣の住民に浸透しているためと思われる。2015 年 11 ～ 12 月に入館者数が減少したのは、12 月からプラネタリウム設備の更新工事に伴い、プラネタリウムドームを閉鎖した影響が大きい。
魚津水族博物館	2013 年 3 月の創立 100 周年リニューアルにより、2013 年の入館者数は大きく増えた。2014 年は、4 月からの消費税率改正や高速道路割引廃止等の影響で、リニューアル効果は続かず入館者数は大きく減少したが、例年よりは多い入館者数となった。2015 年前期は前年割れで、とくにお盆期間に激減した。2015 年 12 月以降は、暖冬やガソリン安により大きく伸び、通年ではわずかに前年増となった。
魚津埋没林博物館	2015 年 2 ～ 3 月の減少は、リニューアル工事休館（2/1 ～ 3/19）が主因。2015 年はリニューアル + 新幹線の効果が 2014 年より入館者が増加したが、2013 年の実績には達しない。県外客の比率が高いが大半はマイカーや観光バス移動で、新幹線開業に伴う鉄道接続事情の変化の影響は不明。また冬季を除く期間は黒部峡谷・宇奈月温泉等の観光・宿泊地を訪れる団体客等の比較的安定した需要がある。各年の 5 月のピークは蟹気楼シーズンであることも関与か。
富山県〔立山博物館〕	2015 年 4 ～ 5 月に入館者数が増加した。これは、例年、企画展の開催がないこの時期に北陸新幹線開業記念「立山の至宝展」（国指定重要文化財の展示を含む；4/4 ～ 5/17）を開催したことで県内外から多くの来場者があったことに依る。各年の 12 ～ 3 月の入館者の減少は、立山山麓地域一帯での冬期行楽（観光）客の減少を反映しており（過去の調査に依る）、これは、毎年、顕著に認められる当館入館者数の季節変動の特徴である。
富山県立山自然保護センター	立山黒部アルペンルートの中地点に位置することから、入館者数はアルペンルートの入り込み状況と連動するが、例年概ね室堂平への入込の 25% が当センターを利用している。なお、施設の利用は天候に大きく左右され、晴天時は少なく、雨天・荒天時は利用が多くなる。また、5 月はアルペンルート利用のピーク月であり、連動して入館者数も多くなる。
立山カルデラ砂防博物館	立山黒部アルペンルートの玄関口の立山駅の近くに位置するため、4 ～ 11 月のアルペンルート開業期間に入館者数の増加が見られる。特に、4 ～ 5 月は「雪の大谷」見学の台湾人観光客の来館が目立つ。2015 年 4 月に来館者が減少したが、これは立山駅での時間待ちの来館者が減少したことによるものと考えている。
富山県交通公園交通安全博物館	交通安全博物館の隣に、無料で自転車を利用できる自転車練習コースがあることから、同コースの利用を兼ねて博物館を訪れる家族連れが年々増加傾向にある。4 月は小学校の自転車教室、8 月は夏休みの子どもの利用が多い。 ※施設としては、「交通安全博物館 + 自転車練習コース＝富山県交通公園」となっている

表2 続き

北陸電力エネルギー科学館	週末土日祝日、及び夏休み等の長期休暇期間に合わせて、科学実験工作教室やイベントを開催している。このため、企画催事期間が長いゴールデンウィークや夏休み、春休みは、教室・イベント参加者で来館者が多くなる傾向にある。
富山市科学博物館	2007 年の全館リニューアル以降、安定して毎年約 11 万人の来館がある。夏休み期間中は特に来館者が多いが、年間を通じて入館者数は概ね安定している。これは、企画展の開催や毎週末に来館者を対象に館内イベントを行っているなどの理由により、リピーターが多いためだと考えている。またプラネタリウムで 6～7 月頃に幼児向け投影、10～11 月頃に小学 4 年生向けの学習投影を行っていることも要因と考えられる。
富山市ファミリーパーク	富山市博物館等共通パスポートの利用、孫とお出かけ支援事業の利用、無料エリアの利用の定着、ライチョウや森の遊園地などの新展示・事業、各種広報・PR 活動によって入館者が増加している。また、当園が他の施設と異なり 5 月と 9 月に入園者のピークをもつ理由は、当園が屋外展示を主とする動物園で、真夏の暑い時期よりも秋の行楽シーズンに入園者数が増加したためと考えられる。
富山市天文台	入館者数は、天候（星が見えるか否か）によって大きく左右される。2013 年の春～夏にかけて入館者が多いのは、晴天率が高かったためと思われる。
富山県自然博物館ねいの里	里山をテーマとした博物館である本館の利用者の大部分は、富山市や射水市などの近隣の市町村の住民である。近年、入館者数の増加は、展示館に子どもたちに人気のあるカメやカエルなどの生き物の実物展示を行ったことや、隣接するいこいの村や近隣の保育園などに出向いての PR 活動によるところが大きいと判断している。また、2 組の子育てサークルの年間を通じての利用が、四季を通してのコンスタントな利用につながっている。
富山県中央植物園	2014 年 4～5 月が他の年と比べて入園者が多かったのは、4 月のさくらまつり期間とその後の天候に恵まれたこと、5 月の「県民ふるさとの日」の無料開園期間の天候が良かったことが考えられた。一方、2015 年 4～5 月の入園者の減少は天候不順や、北陸新幹線開通に伴う各施設のイベントの増加の影響を受けたことが考えられた。以上のように、入園者の増減には天候の影響が大きい。
富山県国際健康プラザ 生命科学館	年間を通じてほぼ一定の来館者がある。これは、展示物がすべて館内にあり、天候に左右されないことと、学校団体による見学等があるためである。
氷見市海浜植物園	入園の無料期間と有料期間があり、2013 年は無料期間が長くあったため入園者が増え、2014 年は有料期間が長くあったため入園者が減ったのではないかと考えられる。有料・無料期間の入園者数の差を比較すると、1 日当たり 10 名程度の僅かな違いであった。ただし、企画展・イベントなどによっては、その差が見られない事もあった。2015 年は入園者が増加しているが、夏休みのイベントの PR に力を入れた事や 11 月、12 月に市内や県内向けのイベントに因るものと考えられる。ただし、7・8 月は、県西部で相次いで大型商業施設がオープンしたためか、客足が鈍いようにも思えた。
庄川水資料館	ミニギャラリーで開催する展示により、多少の増減が生じる。冬期（12～3 月）に入館者数は減るが、2 月のみ多い理由として、隣接の庄川美術館で、市内の小学 2 年生の作品を展示しているため、親子連れの来観者が増加することがあげられる（小学 2 年生の作品展示は毎年 2 月に行っている）。